

稚内市立稚内南小学校

指定年度：H30～
児童数：370名

1 包括的な学校改善に向けた取組の概要

① 意思決定過程の明確化

本校は、児童数370名（全16学級）、教職員28名の大規模校であり、校長の方針に基づく教育活動を迅速かつ確実に実施するためには、意思決定過程を明確にすることが重要であり、管理職や分掌部長を構成員とする校務運営委員会の機能強化を図っている。

校務運営委員会では、校長が教育活動等に対する方針や指示を伝えたり、分掌部長が業務の具体的な内容や進め方等について校長に説明を行い、校長が決定したりしている。

その後、当該の分掌部長が、校務運営委員会での決定事項を学年主任に指示し、全ての教職員の共通理解の下、組織的な教育活動を推進している。

また、意思決定過程において、教職員の経営参画意識が高まるよう、例年実施している教育活動など、校長が方針を示すまでもない場合には、各分掌部長に一定の権限を与えたり、全ての教職員に新たな取組を企画するよう働きかけ、分掌部会で検討させたりするなど、ミドルリーダーや若手教職員それぞれの役割や責任等を明確にしている。

【意思決定の基本的な流れ】

【例1】教育委員会からの通知等に基づく取組

- ① 校務運営委員会で管理職が説明し、関係分掌部長に、本校での推進方策を検討するよう指示
- ② 分掌部会で推進計画を検討の上、校務運営委員会で説明し、校長が決定
- ③ 分掌部長が学年主任に指示し、各学級等で実施

【例2】例年実施している活動等

- ① 分掌部会で例年実施している活動等の計画を検討
- ② 校務運営委員会で分掌部長が説明し、校長が決定
- ③ 分掌部長が学年主任に指示し、各学級等で実施

② 会議の効率化と勤務時間の適正化

本校では、教職員の意識の中で、様々な教育課題を解決し、子どものためになるのであれば長時間勤務もよしとする考え方が潜在的にあり、教職員の意識改革を図っていくためには、定められた勤務時間内で業務を行うことを徹底することが重要であり、時間外勤務の見える化、各種会議の役割や内容の明確化を図っている。

各種会議の役割や内容の明確化では、職員会議や校務運営委員会、分掌部会それぞれの役割等について整理し、全ての教職員に説明するとともに、会議時間の目安の提示や、資料の事前配付を徹底するなど、効率化を図っている。

また、教職員の意識改革では、ICTによる出退勤管理の状況をデータ化し、教職員一人一人に状況を振り返らせたり、学校全体として時間外勤務の目標時間を設定したりするなど、見える化を図っている。

【各種会議の内容等】

	分掌部会	校務運営委員会	職員会議
役割	教育活動等の企画・立案	校長の方針等に基づく取組の推進方策の決定	校長の職務の円滑な遂行
内容	担当業務の実施計画の検討	校長の方針の周知、各分掌等の計画決定、相互の連絡	校長の方針の周知、職員の見解聴取、相互の連絡等
回数(時間)	必要に応じて(45分以内)	月1回程度(30分程度)	毎月1回程度(30分程度)

③ 教職員の経験年数に応じた育成計画

本校の教員は、経験年数10年未満が10名、10年以上が16名であり、それぞれの教員がキャリアステージに応じた資質能力を身に付けるためには、個々の教員の課題を踏まえた研修の工夫改善が重要であり、面談等において北海道の教員育成指標に基づき、期待する姿を伝えるとともに、メンター方式による校内研修を推進している。

メンター方式による研修では、それぞれの教員の指導上の課題などを踏まえた上でチームを編成するとともに、授業改善に直結する内容となるよう研修部長に指示をしている。

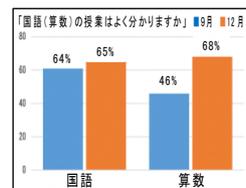
また、教職員一人一人が、自己の指導上の課題を明確にできるよう、管理職による日々の授業参観と指導のほか、他校の教職員や指導主事による授業参観及び指導助言の場を設けるなど、意図的、計画的な指導を行っている。

2 取組の成果と課題 (□：成果 ■：課題)

□新型コロナウイルス感染症への対応では、校務運営委員会の機能を生かし、学びの保障に向けた教育課程の見直しを組織的に行ったことにより、12月の授業評価において、「授業がよく分かる」と回答した児童が、7月より増加した。特に算数では、22ポイントも増加した。

□ICTを活用し時間外勤務の状況を可視化したことにより、教員は自身の働き方や分掌の業務内容等を見直すようになり、学校全体で業務改善を図っていくこととする機運が高まった。

■教職員を対象とした業務改善のアンケートの実施やプロジェクトチームの編制など、より一層、教職員の改革意識を高めるとともに、ICTを活用した会議や家庭との連携などの働き方改革に向けた環境整備に努める必要がある。



月	月30時間以上の時間外勤務人数の割合 ※()は前月からの増減
4月	67%
5月	30% (-37%)
6月	63% (+33%)
7月	56% (-7%)
8月	34% (-22%)